

# 目 次

|                   |    |
|-------------------|----|
| 衛 生 統 計 学 .....   | 1  |
| 口 腔 外 科 学 .....   | 2  |
| 齒 科 矯 正 学 .....   | 3  |
| 高齡者・有病者齒科学 .....  | 5  |
| 衛生行政・社会福祉 .....   | 6  |
| 齒 科 麻 醉 学 .....   | 7  |
| 患 者 支 援 論 .....   | 8  |
| 小 児 齒 科 学 .....   | 9  |
| 齒 科 補 綴 学 .....   | 10 |
| 社 会 保 險 事 務 ..... | 11 |
| 障 害 者 齒 科 学 ..... | 12 |
| 感 染 予 防 学 .....   | 13 |
| 齒科予防処置論Ⅱ .....    | 14 |
| 齒科診療補助論Ⅱ .....    | 15 |
| 齒科保健指導論Ⅱ .....    | 16 |
| う 蝕 予 防 処 置 ..... | 17 |

# 衛生統計学

## 目的

統計学の基礎を学び研究結果や統計資料を解説する能力を養う。また歯科における指標を習得し、衛生士になった際に現場で使用する歯口清掃や歯周疾患のIndexを身につける。

## 授業計画：講義

- 1 疫学
- 2 歯科疾患の疫学
- 3 スクリーニングと国家統計
- 4 標本抽出と度数分布
- 5 基本統計値および相関
- 6 う蝕のIndex
- 7 歯周疾患および歯口清掃のIndex
- 8 テスト前練習問題

**教科書：**「口腔衛生学－口腔保健統計を含む－」第4版学建書院

**評価の方法：**本試験の点数のみで判定します

**授業時間数：**15時間

**担当教員の実務経験：**歯科医師

## 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院および歯科医院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、歯科疾患の疫学指標を復習しつつ、衛生統計に関する基礎知識とその手法が理解できるよう指導している。

# 口腔外科学

## 目的

口腔を原発とする疾患の概要と全身疾患の部分症状として現れる口腔病変につき習得する。  
また、口腔外科手術の概要とともに手術を受ける患者様に対し、術前、術中、術後での衛生士の役割についても学ぶ。

## 授業計画：講義

- 1回目：口腔外科とは  
おもな診査、検査と治療法 全身疾患の理解
- 2回目：先天異常と発育異常  
顎顔面の損傷
- 3回目：口腔粘膜疾患  
炎症
- 4回目：嚢胞  
良性腫瘍 悪性腫瘍
- 5回目：顎関節疾患 唾液腺腫瘍  
神経疾患 血液疾患
- 6回目：処置・小手術の実際とその介助①
- 7回目：処置・小手術の実際とその介助②
- 8回目：全身麻酔下手術の概要

**教科書：**歯科衛生士講座「口腔外科」（永末書店）

**評価の方法：**単位試験

**授業時間数：**30時間

**担当教員の実務経験：**歯科医師

## 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、口腔を原発とする疾患の概要と全身疾患の部分症状として現れる口腔病変や、口腔外科手術の概要、術前・術中・術後での衛生士の役割を理解できるよう指導している。

# 歯科矯正学

## 目的

矯正治療の目的、治療年齢に応じた顎・顔面・歯列の発育、不正咬合の原因、不正咬合の診断、治療内容の実際などを習得して、矯正治療の中での診療補助・予防処置・口腔衛生指導を歯科衛生士が柔軟に行える素地を養う事にある。また、不正咬合の原因である口腔にまつわる様々な悪習癖の除去への指導等、歯科衛生士にとって重要な役割についても授業を行っていく。

また、歯科矯正学の立場からみた目的に留まらず、他の歯科専門領域と連携協力することにより、さまざまな口腔顎顔面領域の疾患に対してより良い総合的な歯科治療を患者に提供することを目的として学習する。

**授業計画：**講義 講義（板書、PCを用いた視覚教育）

- |  |  |
|--|--|
| <p>①テーマ：歯科矯正学概論、頭部・顎・顔面の成長発育、歯・歯列の成長発育<br/>行動目標（SBOs）：<br/>1. 矯正治療の目的や意義を説明できる。<br/>2. 成長発育の概念を理解できる。<br/>3. 顎顔面の成長発育を理解できる。<br/>4. 混合歯列期の成長発育を説明できる。<br/>5. 混合歯列期の成長発育を説明できる。</p> <p>②テーマ：不正咬合の原因<br/>行動目標（SBOs）：<br/>1. 不正咬合の先天的原因を説明できる。<br/>2. 不正咬合の後天的原因を説明できる。<br/>3. 正常咬合の概念を説明できる。<br/>4. 不正咬合の分類を説明できる。</p> <p>③テーマ：矯正治療の生力学<br/>行動目標（SBOs）：<br/>1. 矯正力の種類を説明できる。<br/>2. 作用機序、生体反応を理解できる。<br/>3. 歯の移動を解説できる。</p> <p>④テーマ：矯正診断に関する知識<br/>行動目標（SBOs）：<br/>1. 診断に必要な検査を説明できる。<br/>2. 頭部X線規写真分析を説明できる。<br/>3. 3Dデジタルを応用した矯正治療診断</p> | <p>⑤テーマ：矯正治療に使用する器具・材料とその取り扱い方<br/>行動目標（SBOs）：<br/>1. 矯正用材料・器具を説明できる。</p> <p>⑥テーマ：矯正装置<br/>行動目標（SBOs）：<br/>1. 装置の構造を説明できる。<br/>2. 装置の用い方を説明できる。<br/>3. 矯正装置を図解できる。</p> <p>⑦テーマ：症例の分析・治療学<br/>行動目標（SBOs）：<br/>1. 症例を的確に分析できる。<br/>2. 治療目標を立案することができる。<br/>3. 治療開始時期を説明できる。<br/>4. 治療の進め方を解説できる。<br/>5. 顎変形症を概説できる。</p> <p>⑧テーマ：保定・総括<br/>行動目標（SBOs）：<br/>1. 保定の意義を理解できる。<br/>2. 保定装置を図解できる。<br/>3. 不正咬合の治療法を説明できる。<br/>4. 不正咬合の予防法を説明できる。</p> |
|--|--|

**教科書：**

全国歯科衛生士教育協議会『咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正』（医歯薬出版）

歯科国家試験パーフェクトマスター歯科矯正学（医歯薬出版）

**評価の方法**

前半終了時に小テスト（記述式）を行い、習熟度を判定する。この小テストは平常点として加味する。

また、単位試験では、全般からまんべんなく出題し、広範囲の習熟度を判定する。

**授業時間数：**30時間

**教員実務経験：**歯科医師

**実務経験のある教員による授業の概要**

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、矯正治療の目的、治療年齢に応じた顎・顔面・歯列の発育、不正咬合の原因等を習得し、矯正治療の中での診療補助・予防処置・口腔衛生指導を歯科衛生士が柔軟に行える素地を養うことができるよう指導している。

# 高齢者・有病者歯科学

## 目的

高齢者の口腔内は一般成人と異なった特徴を持っています。また、高齢者は全身的、心理的および社会的状態においても、一般成人と同列に扱うことは出来ません。社会の高齢化に伴い、歯科治療を受ける高齢者は急激に増加することが予想され、衛生士にとって高齢者の特徴を理解しておくことは必要不可欠です。そこで、歯科衛生士として必要な高齢者の知識を習得するとともに、高齢者に対する歯科診療の介助、口腔ケア指導ならびに対応について習得することを目的とします。

## 授業計画：講義

- 第1回 高齢者・有病者歯科学 総論  
高齢者・有病者の環境
- 第2回 高齢者・有病者の全身状況
- 第3回 高齢者・有病者の口腔状況
- 第4回 高齢者・有病者への歯科衛生士の役割

教科書：最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」医歯薬出版社

評価の方法：単位試験・レポート・小テスト

授業時間数：15時間

教員実務経験概要：歯科医師

## 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯科衛生士として必要な高齢者の知識・高齢者に対する歯科診療の介助・口腔ケア指導・対応が習得できるよう指導している。

# 衛生行政・社会福祉

## 目的

歯科衛生士は、国家免許を要する専門職種として歯科医療や歯科保健活動に携わる。その身分や業務は法に規定・制約され、様々な制度やしくみに密接に関連している。衛生行政・社会福祉の講義においては、歯科衛生士が歯科医療や歯科保健活動に従事する上で必要な法・制度などの社会学的知識を習得し、行政的・社会的に円滑に業務を遂行できるようになることを目的とする。

## 授業計画：講義

1. 歯科関連法規 1（歯科衛生士法）
2. 歯科関連法規 2（歯科医師法、歯科技工士法、歯科口腔保健法、医療法）
3. 医療関係職種、その他関連法規
4. 社会保障 1（概論、社会保険）
5. 社会保障 2（医療保険）
6. 社会保障 3（介護保険）
7. 社会福祉
8. 医療の動向

## 教科書

最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 2  
歯科衛生士と法律・制度」医歯薬出版

## 評価の方法：単位試験

## 授業時間数：30時間

## 教員実務経験概要：歯科医師

### 実務経験のある教員による授業の概要

大阪大学歯学部附属病院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、歯科衛生士が歯科医療や歯科保健活動に従事する上で必要な法・制度などの社会学的知識が習得できるよう指導している。

# 歯科麻酔学

## 目的

歯科麻酔学とは、歯科治療や手術中の痛みを取り除くだけでなく、安全で快適な歯科医療を行うための全身管理学である。歯科治療時やスケーリング中にも全身的偶発症が発生する可能性がある。そこで、歯科衛生士にも血圧や脈拍などのバイタルサインの評価、救急蘇生を含む緊急時の対応について、その基礎を理解すると同時に、適切な診療補助行為が求められる。さらに、近年、歯科においても循環器系を中心とした全身的な疾患をもった患者の受診が増えており、これら患者の歯科治療時における全身的な管理の補助が求められる。本講義は、歯科麻酔学の必要性、基本的な知識の習得を過去の国家試験問題を取り入れて行う予定である。

## 授業計画：講義

- |                             |                       |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1. 9月2日（木）9：30～12：40        | 3. 9月16日（木）9：30～12：40 |
| 1限：歯科麻酔学概論                  | 1限：精神鎮静法              |
| 2限：局所麻酔                     | 2限：全身麻酔法              |
| 2. 9月9日（木）9：30～12：40        | 4. 9月30日（木）9：30～12：40 |
| 1限：バイタルサイン・<br>生体情報モニターの読み方 | 1限：歯科治療時の全身的合併症       |
| 2限：有病者の歯科治療                 | 2限：救急救命処置             |

**教科書：**歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学（学建書院、平成28年1月第2版）

**評価の方法：**単位試験

**授業時間：**15時間

**教員実務経験概要：**歯科医師

## 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、歯科衛生士として必要な全身管理や基礎となる呼吸・循環に関する基本的事項を修得し、口腔領域特有の麻酔方法や精神鎮静法の概念が理解できるよう指導している。

# 患者支援論

## 目的

- ①対象となる人間の特徴を理解し、対象に合わせた支援が理解できる。
- ②専門職としての支援を考えることができる。

## 授業計画

|    | 内 容                       |    |
|----|---------------------------|----|
| 1回 | 健康とは：健康の定義とウェルネスの概念       | 講義 |
| 2回 | 看護とは：看護の定義と活動の場           | 講義 |
| 3回 | 看護の対象：人間のライフステージ          | 講義 |
| 4回 | 看護の対象：対象の尊厳や個別性について       | 講義 |
| 5回 | 安全安楽の技術：安全安楽とは、阻害因子       | 講義 |
| 6回 | 安全安楽の技術：バイタルサインの把握 急変時の対応 | 講義 |
| 7回 | バイタルサイン測定 体位と移動技術         | 演習 |
| 8回 | 吸引の手技、吸引の必要性と注意点の理解       | 演習 |

教科書：プリント配布

評価方法：出席、授業態度 および 課題提出物

授業時間数：15時間

教員実務経験概要：看護師

## 実務経験のある教員による授業の概要

私立病院において看護師業務に従事した実務経験を活かし、対象となる人間の特徴と、対象に合わせた支援が理解できるよう指導している

# 小児歯科学

## 目的

小児歯科学は、成長発育過程にある顎口腔領域を理解し、これらをより健康に育成することを目的としている。「子どもは大人を小さくしたものではない」と言われるように、小児歯科医療には特異性があり、小児の歯科治療および診療介助を行うためには十分な知識および技能が必要とされる。本講義では、安全・安心に十分配慮した小児歯科診療および診療介助を行うために、小児の成長発育に則した歯科的知識、小児の行動への対応を修得することを目的とする。

## 授業計画：講義

- 1) 小児歯科学概論 心身の発育
- 2) 顎顔面および歯列・歯の発育
- 3) 診療時の小児および保護者への対応法  
小児の口腔保健管理法
- 4) 乳歯および幼若永久歯の特徴  
乳歯および幼若永久歯のう蝕とその予防法
- 5) 小児歯科診療における診療補助（乳歯および幼若永久歯の歯冠修復, 乳歯の歯内療法）
- 6) 小児歯科診療における診療補助（幼若永久歯の歯内治療, 咬合誘導）
- 7) 小児歯科診療における診療補助（外科的処置, 外傷処置）  
小児の口腔疾患（歯周疾患, 口腔軟組織の異常と疾患）
- 8) 総復習

教科書：新・歯科衛生士教育マニュアル 小児歯科学（クインテッセンス出版）

評価の方法：単位試験、小テスト、出席状況出席および授業態度により総合的に評価する。

授業時間数：30時間

教員実務経験概要：歯科医師

## 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、小児の成長発育に則した歯科的知識、小児の行動への対応が修得できるよう指導している。

# 歯科補綴学

## 目的

歯科補綴学の基本は歯質が崩壊あるいは歯や顎が欠損した場合に、人工装置を用いて修復することにより機能や形態の回復をすることを探求する学問である。そのために必要な基礎知識、補綴歯科治療の特徴や方法、歯科補綴装置の種類および製作法などについて理解することが本講義の目的である。しかし、近年回復のみならず欠損などによる継発疾病予防の観点から、歯科衛生士には診療補助だけではなく、患者指導や装着後の維持管理等への関与が求められている。これらへの理解が深まることも期待する。

## 授業計画：講義

- 1 歯科補綴学の概要と基礎知識
- 2 歯の欠損に伴う障害
- 3 補綴歯科治療の検査・診断  
クラウン・ブリッジの基礎知識
- 4 クラウン・ブリッジの臨床ステップ
- 5 有床義歯の基礎知識
- 6 有床義歯の臨床ステップ
- 7 インプラント  
補綴装置の補修
- 8 患者指導・その他

**教科書：**最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」(医歯薬出版)

**評価の方法：**単位試験

**授業時間数：**30時間

**教員実務経験概要：**歯科医師

## 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、補綴歯科治療の基礎知識、特徴や方法、歯科補綴装置の種類および製作法などについて理解できるよう指導している。

# 社会保険事務

## 目的

医療保険の内容を理解し、診療室での業務として積極的に参加できる歯科衛生士の養成。

## 授業計画：講義

授業日程 1時間30分 計8回これを1日3時間4回実施する。

社会保険事務資料より作成した小テストを授業前半に実施後、解答及び解説を行う。

後半は資料にて解説、その内容について次回授業前半に小テストを行う。

カルテ、歯科衛生士業務記録等記載実地訓練等を行う。

## 教科書：資料配布

資料：1. カルテ、1号用紙、2号用紙、レセプト等

2. 歯科衛生士業務記録

3. 診療報酬点数早見表 (①～④)

4. 処方せん、情報提供書、その他

評価の方法：各小テスト及びカルテ記載等による添削

授業時間数：15時間

教員実務経験概要：歯科医師

## 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、医療保険の内容が理解できるよう指導している。

# 障害者歯科学

## 目的

障害者歯科学は、臨床の場で特別な配慮（スペシャルニーズ）を必要とする患者さんに対し、安全で安心な障害者診療および診療介助、トレーニング、リハビリテーションを行うために、その概念や特性を理解し、口腔の健康の回復や口腔ケアを通して健康増進と機能回復だけでなくQOLの向上につなげるための知識と理解を深め、その対応と役割を習得することを目的とする。

## 【一般目標】

1. 障害者歯科医療の必要性を理解する
2. 障害者歯科における特徴・特性を理解する
3. 障害者歯科におけるトレーニング、リハビリテーションについて理解する
4. 障害者歯科において歯科衛生士としてのさまざまな役割について理解する
5. 専門性の高い歯科医療知識を習得し、他職種との連携やチーム医療の重要性を理解する

**授業計画：**講義形式で行う。講義内容を以下に記す。

1. 障害者歯科学概論
  - ①障害の概念
  - ②障害の分類と根拠法令
  - ③QOL、スペシャルニーズ、バリアフリー、ノーマライゼーション
2. 障害者歯科各論：各疾患について
  - ①精神発達障害・心理的発達障害・行動障害
  - ②運動障害（神経、筋系の疾患）
  - ③感覚障害、音声言語障害、精神障害など
3. 障害者歯科における歯科医療と行動調整
4. 口腔ケア、口腔衛生管理や療育活動
5. リスク評価と安全管理
6. 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割
7. 地域における医療連携

**教科書：**最新歯科衛生士教本 障害者歯科（第2版）医歯薬出版

新・歯科衛生士教育マニュアル 小児歯科学 クインテッセンス  
（2. は、小児歯科学の教科書と同じものを使用する）

**評価方法：**筆記試験にて採点100点満点中60点以上を合格とする  
宿題、レポート、出席状況、実習状況を加味する

**授業時間数：**15時間

**教員実務経験概要：**歯科医師

## 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院、大阪府歯科医師会障がい者歯科診療所において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、障害者診療および診療介助・トレーニング・リハビリテーションを行うために概念や特性を理解し、対応と役割が習得できるよう指導している。

# 感染予防学

## 目的

歯科衛生士は医療専門職として、医療関連感染を予防することは最も基本的な要件の一つである。

とくに歯科診療では出血を伴う処置が多いことや歯の切削やスケーリング等による飛沫に伴って、患者の体液に直接曝露する機会が多いこと、使用する機械器具が多様で鋭利なものが多いこと、さらに多くの場合患者の感染症を把握することが困難である等の問題を抱えている。

一方で、例えば現在、世界の人口の200人に1人がHIV感染者である。わが国では“いきなりエイズ”患者が約30%で自分の感染を知らない事例が多いこと（自認率が低い）が報告されている。

従って、自分が感染しないこと、自分が媒介となって患者や医療スタッフに感染を拡大させないこと、機械器具の管理、また、血液体液曝露発生時の対応等、感染対策全般について理解することは大変重要である。

「歯科医療で重要な感染症」と「感染対策」の知識を獲得することを目的とする。

## 授業計画：講義

- ①医療安全（通知）、および感染予防対策の意義  
②歯科医療者が知っておくべき感染症。（MRSA, HBV, HCV, 梅毒等）  
③HIV/AIDS（前半）
2. 「感染予防対策の基本」

大阪市立総合医療センター医療安全管理部主査 感染管理認定看護師 今崎 美香  
<前半> ①新型コロナウイルス感染症 <後半> ①針刺し切創・血液体液曝露  
②感染と感染症 (DVD 供覧)  
③標準予防策（スタンダードプリコーション） ②感染性廃棄物  
④感染経路別予防策 ③洗浄・消毒・滅菌

以下、2. の講義の基礎知識を基に、歯科臨床に特化した感染対策の解説。

- ①歯科臨床における感染症（歯科受診患者における感染症の実態）  
②歯科疾患と基礎疾患との関係および口腔ケアの重要性と意義  
③歯科における院内感染予防対策の基本と標準予防策(スタンダードプリコーション)  
④歯科における洗浄・消毒・滅菌
- ①職業感染対策（体液曝露発生時の対策）  
②手指衛生の重要性（DVD 供覧）  
③国家試験（過去）問題の解説

教科書：「やさしくわかる！感染対策 実践ガイド」 医歯薬出版

評価の方法：単位試験

教員実務経験概要：歯科医師

## 実務経験のある教員による授業の概要

大阪市立総合医療センター、歯科医院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、感染と感染症、医療関連感染症対策の知識が習得できるよう指導している

## 歯科予防処置論 II

### 目的

歯科予防処置についての専門知識と技術、および態度を修得する目的と意義を理解するために、その概要について学ぶ。

### 授業計画

1. 超音波・エアスケーラー（講義・模型実習）
2. 超音波・エアスケーラー（模型実習）
3. 超音波・エアスケーラー（相互実習）
4. 超音波・エアスケーラー（相互実習）
5. 手用スケーラー（講義・模型実習）
6. 手用スケーラー（講義・模型実習）
7. シックルタイプスケーラー（相互実習）
8. キュレットタイプスケーラー（模型実習）
9. キュレットタイプスケーラー（相互実習）
10. キュレットタイプスケーラー（相互実習）
11. シャープニング
12. ルーペ（講義・模型実習・相互実習）
13. ルーペ（講義・模型実習・相互実習）
14. 口腔内カメラ
15. まとめ・単位試験

教科書：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版  
最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版

評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度

授業時間数：60時間

担当教員：専任教員

教員実務経験概要：歯科衛生士

### 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、歯科予防処置についての専門知識・技術・態度を修得する目的と意義が理解できるようその概要について指導している。

## 歯科診療補助論 II

### 目的

歯科診療全般にわたる基礎知識を活用し、臨床実習における実践力を身に着けるために知識を深め、基本的補助技術を習得する。

### 授業計画

1. 印象材の取り扱い（相互実習・模型作成）
2. 印象材の取り扱い（相互実習・模型作成）
3. 印象材の取り扱い（精密印象材・模型実習）
4. ラバーダム防湿法（講義、マネキン実習）
5. ラバーダム防湿法（マネキン実習）
6. ラバーダム防湿法（相互実習）
7. 暫間被覆冠作製 I
8. 暫間被覆冠作製 II
9. 歯内療法における歯科診療補助（セッティング含む）
10. 保存治療における歯科診療補助（セッティング含む）
11. 補綴治療における歯科診療補助（セッティング含む）
12. 口腔外科における歯科診療補助（セッティング含む）
13. 矯正歯科における歯科診療補助（セッティング含む）
14. 全身疾患をもつ患者と診療補助
15. まとめ、単位試験

**教科書：**最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論

医歯薬出版

新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料の知識と取扱い

医歯薬出版

新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科器械の知識と取扱い

医歯薬出版

歯科衛生士デンタルスタッフポケットマニュアル

医歯薬出版

第3版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎

永末書店

器材準備マニュアル

口腔保健協会

**評価方法：**単位試験・実技試験評価・出席率・授業態度（忘れ物、提出物など）

**授業時間数：**60時間

**担当教員：**専任教員

**教員実務経験概要：**歯科衛生士

### 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院および病院において歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、歯科診療全般にわたる基礎知識を活用し、臨床実習における実践力を身に着けるために知識を深め、基本的補助技術が習得できるよう指導している

## 歯科保健指導論 II

### 目的

歯科保健指導の難しさは、単に知識の伝達だけでなく、相手の生活態度や習慣を変えなければならないこと、さらに指導する相手が一定ではない点である。指導にあたっては各年代に応じた配慮と個人的な状況をふまえた指導が要求される。

- ① 指導の裏付けとなる専門的知識をもつ。
- ② 指導する具体的な手段や方法を十分に理解する。
- ③ 相手に伝達できる技術を身につける。

### 授業計画

- |                                |                             |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1. 保健行動支援のための基礎知識<br>歯科衛生過程の概要 | 9. 要介護高齢者の歯科保健指導            |
| 2. 歯科衛生アセスメント（情報収集・情報処理）       | 10. 高齢者の摂食嚥下と<br>リハビリテーション① |
| 3. 口腔機能管理に関する指導                | 11. 高齢者の摂食嚥下と<br>リハビリテーション② |
| 4. 口腔機能評価実習①                   | 12. 介護施設実習媒体作成              |
| 5. 健康に関わる地域の役割（老人保健）           | 13. 介護施設実習媒体作成・練習           |
| 6. 災害時の歯科保健医療                  | 14. 介護施設実習媒体作成・練習           |
| 7. 歯科衛生介入実習①                   | 15. 媒体発表                    |
| 8. 歯科衛生評価                      |                             |

**教科書：**最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版  
最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版 医歯薬出版  
最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版 医歯薬出版  
よくわかる歯科衛生過程 医歯薬出版

**評価の方法：**単位試験・実習評価・出席率・授業態度・レポート

**授業時間数：**60時間

**担当教員：**専任教員

**教員実務経験概要：**歯科衛生士

### 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院および保健センターにおいて歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、保健指導の裏付けとなる専門的知識の習得と具体的な指導手段・方法の理解、伝達技術が身に付けられるよう指導している。

# う蝕予防処置

## 目的

う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識・技術および態度を修得する。

## 授業計画：講義および実習

1. 概要
2. 基礎知識①
3. う蝕活動性試験①
4. う蝕活動性試験②（相互実習）
5. う蝕活動性試験③
6. フッ化物の基礎知識①
7. フッ化物の基礎知識②
8. フッ化物の基礎知識③
9. フッ化物の応用実習①（相互実習①）
10. フッ化物の応用実習②（相互実習②）
11. 小窩裂溝填塞法
12. 小窩裂溝填塞法実習（相互実習）
13. メインテナンス
14. まとめ
15. 単位試験

**教科書：**最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版  
最新歯科衛生士教本 保健生態学 第2版 医歯薬出版

**評価の方法：**単位試験・実習評価・出席率・授業態度

**担当教員：**専任教員